

5 その他の水質測定結果の概要

5.1 全窒素及び全リン

富栄養化の原因物質とされる全窒素、全リンは、河川 28 水域 30 地点、湖沼 4 水域 8 地点、海域 5 水域 7 地点で測定した。測定結果は参考資料 5 に示す。

(1) 河川

河川において、全窒素の最大値及び平均値が最も高かった地点は浅野川下流の鞍降橋で、最大値は 10 mg/L、平均値は 4.4 mg/L であった。

また、全リンの最大値及び平均値が最も高かった地点は八田川の金沢競馬場横で、最大値は 0.46 mg/L、平均値は 0.19 mg/L であった。

(2) 湖沼

湖沼において、全窒素の最大値が最も高かった地点は河北潟の大根布放水路前で、最大値は 1.7 mg/L であった。平均値が最も高かった地点は新堀川（柴山潟を含む）の柴山潟中央で最大値は 1.0 mg/L であった。

また、全リンの最大値が最も高かった地点は新堀川（柴山潟を含む）の柴山潟中央で最大値は 0.14 mg/L であった。平均値が最も高かった地点は河北潟の大根布放水路前で、平均値は 0.089 mg/L であった。

(3) 海域

海域において、全窒素の最大値及び平均値が最も高かった地点は金沢港(甲)の泊地出口で、最大値は 1.7 mg/L、平均値は 0.88 mg/L であった。

また、全リンの最大値及び平均値が最も高かった地点は金沢港(甲)の泊地出口で、最大値は 0.097 mg/L、平均値は 0.055 mg/L であった。

5.2 特殊項目（銅、全亜鉛）

銅、全亜鉛は、梯川水系を中心に河川 12 水域 20 地点、湖沼 1 水域 1 地点で測定した。測定結果は参考資料 6 に示す。

(1) 銅

銅の最大値が最も高かった地点は郷谷川の主谷川合流点下流で、最大値は 0.17 mg/L であった。平均値が最も高かった地点は郷谷川の主谷川合流点上流及び主谷川合流点下流で、平均値は 0.13 mg/L であった。

(2) 全亜鉛

全亜鉛の最大値が最も高かった地点は郷谷川の主谷川合流点下流で、最大値は 0.35 mg/L であった。平均値が最も高かった地点は郷谷川の主谷川合流点下流で、平均値は 0.27 mg/L であった。

5.3 その他の項目（陰イオン界面活性剤）

陰イオン界面活性剤は、河川 11 水域 11 地点、湖沼 1 水域 1 地点、海域 1 水域 1 地点で測定した。測定結果は参考資料 7 に示すとおりであり、最大値が最も高かった地点は河原田川のいろは橋で、最大値は 0.35 mg/L であった。平均値が最も高かった地点は河原田川

のいろは橋で、平均値は 0.12 mg/L であった。

5.4 水生生物保全環境基準に係る事前調査結果

水生生物保全環境基準に係る事前調査として全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩、底層溶存酸素量を測定した。測定結果は参考資料 8 に示す。

(1) 全亜鉛

全亜鉛は、「2 特殊項目」として全亜鉛の測定を行った地点を除き、河川 44 水域 67 地点、湖沼 3 水域 7 地点、海域 11 水域 38 地点、計 112 地点で測定した。最大値が最も高かった地点は御祓川下流の仙対橋で、最大値は 0.07 mg/L であった。平均値が最も高かった地点は伏見川の米泉橋で、平均値は 0.041 mg/L であった。

(2) ノニルフェノール

ノニルフェノールは、河川 47 水域 76 地点、湖沼 4 水域 8 地点、海域 11 水域 38 地点、計 122 地点で測定したが、いずれの地点も報告下限値 (0.00006 mg/L) 未満であった。

(3) 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩

直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩は、河川 47 水域 76 地点、湖沼 4 水域 8 地点、海域 11 水域 38 地点、計 122 地点で測定した。最も高かった地点は、浅野川上流の茅原橋で 0.0056 mg/L であった。

(4) 底層溶存酸素量 (底層 DO)

底層溶存酸素量は、湖沼 4 水域 8 地点、海域 11 水域 38 地点、計 46 地点で測定した。最小値が最も低かった地点は河北潟の森下川河口地先で、最小値は 3.8 mg/L であった。平均値が最も低かった地点は金沢港 (甲) の泊地中央で、平均値は 7.7 mg/L であった。